

自殺者0人の社会を目指して part.4

「いじめ」や「運動部顧問の体罰」等に端を発する自殺問題から、核心として話される問題とは別の問題点が見えてきます。それは、子供たちが、大人や社会に強い不信感をもっており、社会的に追い詰められている。という事です。vol.15「自殺者0人の社会を目指して part.2」で『自殺者を減らす事は可能かも知れないが0人にする事は不可能だ。』と多々指摘されますが、私は違う考えです。紙面の都合もありますので、5月以降改めてその解決方法を提案します。」とお伝えしましたので、今回改めてお話をさせていただきます。自殺対策で一番難しいのは、20年前に比べ自殺者数が1.1倍も増えた10代・20代だと感じています。今の社会で、「命は大事だよ」「あなたは大事だよ」と伝えても、子供たちは大人のインチキさを見抜いていると思います。では、どうすれば良いか。私の望む行動規範を述べます。私たち大人がもっと楽しく真剣に生きる事が大切です。自殺対策で言えば、解決できる問題は徹底的に解決する。その上で「ここまでして人の命は守らなきゃいけないのか：」「ここまでして市川市って困っている人を助けてあげるんだ：」と感してもらおう事が肝要です。遠回りに思われるかもしれませんが、これが最も大切なポイントです。恐らく皆さんは自殺の脅威からぎりぎり逃げ切れると思います。次の世代も次の次の世代のこたちも、この毎年80人以上の人が自殺してしまう市川市を生きていく事になります。今、この時点で、変えられるものは変えたいです。誇りを持って、次の世代のこたちに「より生き心地の良い社会にしたよ！」って伝えたいです。誰も自殺に追い詰められる事のない社会。せめて、自殺で大切な人を亡くした人が安心して悲しむ事のできる社会。それはきっと、自殺とは無関係と思っている私たちひとりひとりにとつても生きていて心地の良い社会であるはず。これが私の「最も」実現したい社会です。みなさんで「今後も住み続けてみたい市川市」を思い描き、話し合ってみて下さい。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成25年5月27日

増田好秀